



**岩宿遺跡における
明治大学考古学研究室・
相沢忠洋による発掘調査**
(1949年9月 明治大学博物館蔵)

在野の考古学者・相沢の報を受け、ともに発掘にあたった同遺跡から発掘された石器類により、日本に旧石器時代が存在したことを証明する大発見となりました。



機関誌「明法雑誌」
(1885・明治18年)

明治法律学校の機関誌です。同誌には各種の論説と並んで明治大学関係者の研究成果をまとめた論文も掲載されました。現在大学の発行する各種研究誌の源流です。

**アラスカ・マッキンリー学術調査に
おけるマッキンリーベースキャンプ**
(1960・昭和35年)

明治大学創立80周年を記念して「アラスカ地域総合学術調査団」が設置され、アラスカ・マッキンリー山(現デナリ)を中心とする地域に民族学・考古学・地理学専攻の研究者を中心とする学際的なメンバーが派遣されました。同調査は北方地域における日本からの調査の先駆けとして大きな研究成果を挙げました。



65

目で見る明治大学の歩み

明治大学史資料センター



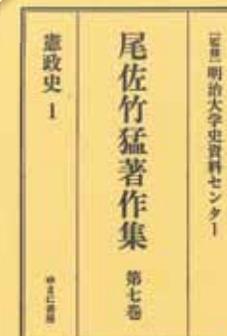
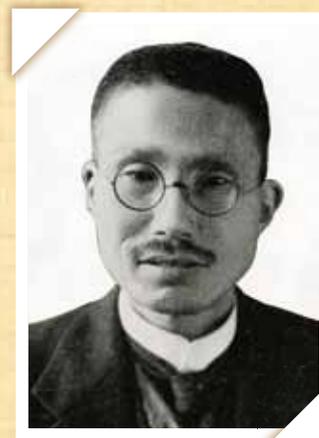
研究の歴史

現在明治大学では、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(大型研究)の採択課題をはじめ、特色ある多様な研究が展開されています。今回は明治大学の調査と研究の歴史をたどることにします。(明治大学史資料センター・村松 玄太)



**工学部(現理工学部)
機械工学科の実験風景**
(1960・昭和35年)

1944年設立の明治工業専門学校機械科にルーツを持つ同科では、日本の高度工業社会を支える研究と人材育成が行われ、理工学部に改組後現在に至っています。1965年までは駿河台に工学部がありました。



**尾佐竹猛(写真左)と
尾佐竹猛著作集(写真右)**

(明治大学史資料センター編、ゆまに書房、2005-2006年、全24巻)

著者の尾佐竹猛(1880-1946)は大審院判事・歴史学者として活躍し、明治大学で教鞭も執りました。吉野作造らと「明治文化研究会」を組織し、明治法制史を含む貴重な文化史資料の発掘につとめました。その成果はこの著作集のほか、大部の『明治文化全集』(日本評論新社等から刊行)に収められています。